

岡山県の土地改良



新年のご挨拶

岡山県土地改良事業団体連合会
会長職務代理者
副会長 黒田 晋

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、平素から当会の運営並びに農業農村整備事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。私こと、昨年10月から会長職務代理の職を担うこととなりました。引き続きのご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

一昨年来、新型コロナウイルスが猛威を振るい、経済・社会活動はもちろんのこと農林水産分野においても大きな打撃を受けています。こうした中、皆様方が各地域で取り組まれている様々な活動に対し深く敬意を表する次第であります。

また、昨年末、令和4年度農業農村整備事業関係当初予算として4,468億円が閣議決定され、これに3年度補正予算を加えると、6,300億円を確保することが出来ました。これもひとえに、皆様方のご理解ご協力と熱心な要望活動の成果と感謝申し上げます。

さて、食料の安定供給と農業競争力の強化が求められる中、農地や農業用水路など農業生産基盤の整備を契機とした高収益作物の導入や担い手への農地の集積・集約化などにより、儲かる農業の実現を図る必要があります。

また、本県には約9,500余りの農業用ため池があり、その半数近くが、決壊した場合に人的被害を与える恐れのある防災重点農業用ため池であります。県からの委託を受け当会が運営している「岡山ため池保全管理サポートセンター」は、管理者等からの相談業務に加え、ため池の廃止や改修、統廃合等の提案、さらに昨年からは劣化状況評価を実施するなど、引き続き、安全・安心な暮らしの実現に向けて取り組んでいるところであります。

さらに、土地改良区の組織運営基盤の強化のため、複式簿記導入の支援なども継続的に実施していくこととしています。

こうした状況を踏まえ、創立から64年目を迎えた当会は、今後とも会員の皆様方の要望に応えるべく一層努力してまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

結びに、今年一年の皆様方のご健勝とご多幸をお祈りし新年のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和4年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が世界各国で拡大する中で、新しい年を迎えることとなりました。我が国では、ワクチン接種が進み感染者数は減少しているものの、世界的には変異株の感染が拡大し予断を許さない状況が続いております。

皆様には、感染防止のためにできることを今一度ご確認いただき、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っております。

さて、昨年3月に新たな土地改良長期計画が策定され、三つの政策課題に取り組むこととされました。生産基盤の強化による農業の成長産業化、多様な人が住み続けられる農村の振興、農業・農村の強靱化といった政策課題に対して具体的な施策が定められ、中でもスマート農業実装の加速化、ため池の防災対策の集中的かつ計画的な推進、流域治水の推進は、今後の農業農村整備を進める上で大事な要素となってくるものです。

令和4年度予算につきましては、これらの政策課題の解決に向け、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,468億円を確保することができました。この結果、令和3年度の補正予算を含めると6,300億円となります。

皆様の活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

一方、第五次男女共同参画基本計画に続き、土地改良長期計画においても土地改良区等の女性理事登用が成果目標とされたところであり、我々土地改良団体においても、将来の組織体制強化のため女性参画を進めていかなければなりません。

私たち土地改良に携わる者としては、政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におき、農業農村の振興に積極的に貢献していくことが重要であると考えております。また、農業農村の維持、発展に大きく貢献していることについて、広く国民の皆様にアピールし共感を得ていく努力も必要であります。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう引き続き奮闘して参りたいと思います。

また、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員と宮崎雅夫参議院議員が元気に全国を飛び回り、まさに「車の両輪」となって活躍されています。本年は進藤さんの2回目の闘いとなりますが、今後は、進藤さん、宮崎さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。

最後になりますが、輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、岡山県の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。本年も何卒宜しくお願い致します。

私も皆様にご支援をいただき国政に送り出していただいてから、早5年半が過ぎました。土地改良予算の動向を報告し、私なりの政治スタイルを再確認しながら次のステップを展望してみたいと思います。

昨年末には、令和3年度補正予算が臨時国会において可決、成立しました。土地改良予算は、総額1,832億円（TPP等対策：774億円、米対策：46億円、国土強靱化5か年加速化対策：1,012億円）です。令和4年度当初予算政府原案での土地改良予算は4,468億円（令和4年度からデジタル庁計上となる政府情報システム予算を含む。）であり、令和4年度の予算額は補正と当初を合わせて6,300億円となり、本年度と同水準の予算が確保できる見通しとなりました。

主な事業制度の新規・拡充事項としては、農家負担がゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」の工種に農業水利施設や農道、暗渠排水等を追加（現在は区画整理と農地造成のみ）、「農地耕作条件改善事業」の助成対象に除草機器を追加、省エネ化・再エネ利用に取り組む「かんがい排水事業」の事業費要件や末端要件を緩和、「農地耕作条件改善事業」等の助成対象に田んぼダム導入に係る調整活動や畦畔補強等を追加、「土地改良施設維持管理適正化事業」に「防災減災機能等強化対策」（防災・減災機能の強化、施設管理の省エネ・再エネ利用や省力化を図るための施設整備）を新設（国費率を従来の30%から50%に嵩上げ）、「土地改良区体制強化事業」の助成対象に小規模土地改良区の業務再編を追加することなどが挙げられます。

私は、これまで全国津々浦々を訪問し、現場の実情を視て、現場の声を聴いて、それらを国政の場に届け、課題解決の実現に努めて参りました。私自身、現場目線、国民目線で政治こそが、いま強く求められていると痛感しています。こうした活動が事業制度の新規・拡充要求に繋がっているものと確信しています。岡山県内にも度々訪問し、色々なご指摘や多くの要請をいただきました。こうした現場の声を真摯にお聴きし、改善できるものはすぐに改善し、事業制度の新規・拡充に繋げる必要があるものは次年度の予算要求に反映できるように更に努力して参ります。

全国各地の農業・農村は多様であり、それ故に各種要請の内容も多様です。引き続き同志の宮崎雅夫議員と力を合わせ、必要な予算の確保とともに、現場の課題解決に直結する制度構築等に全力で取り組んで参ります。今後とも、これまでの政治スタイルとスタンスを変えることなく、泥臭く鈍重でも、急峻な斜面を一步一步踏み締めて前進する牛のように精進し、現場が抱えている課題を一つでも多く解決できるように結果を出して参る所存です。

皆様からお預かりした参議院議員の任期も残すところ7か月余りとなりましたが、まずは貴重な任期を一日たりとも無駄にすることなく政治活動に全力投球して参ります。そして、次のステップに進むためには改選という高く厚い壁を超えなければなりません。私自身、この壁の突破に専心努力して参る覚悟ですので、皆様の引き続きのご指導とご支援を心からお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしております。



新年のご挨拶

農林水産大臣政務官
衆議院議員 宮崎 雅夫

岡山県土地改良事業団体連合会会員ならびに関係の皆様にご挨拶申し上げます。旧年中は多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

昨年10月に発足した岸田内閣ならびに11月の第二次岸田内閣において、農林水産大臣政務官を拝命しました。これも偏に岡山県の皆様ならびに、進藤金日子参議院議員はじめ先輩国会議員のご指導とご支援によるものであり、本年も新たな気持ちで現場主義に徹しつつ皆様のご意見をお伺いしながら一層努力して参る所存ですので、引き続きご指導をお願いいたします。

さて、ここ2年に亘り農林水産業はじめ各方面に影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症は、国民の皆様のご協力により、昨秋以降の新規感染者数は低位に推移していますが、新たな変異株による感染拡大も懸念される昨今の状況からは決して油断することはできません。

経済安全保障の重要性が叫ばれる中、食料の多くを輸入に頼る我が国にとって食料安全保障の確立は重要であり、そのためには我が国の農林水産業の持続的発展が不可欠です。

こうした中、昨年末には、令和4年度当初予算案が閣議決定され、また、臨時国会で令和3年度第1次補正予算が成立し、農業農村整備事業関連予算として合計6,300億円を確保することができました。

このうち、令和4年度当初予算では、前年度当初を上回る4,468億円を確保し、農地の大区画化、水利施設の老朽化対策等を推進することとしています。また、令和3年度補正予算では、TPP対策や防災・減災、国土強靱化対策として1,832億円が計上されており、全国の皆様のご要望にしっかりと応ええる規模となっています。

また、これから国会で議論される令和4年度当初予算に関連して、土地改良法改正案を検討することとしており、主な事項として、ため池等の急激な防災事業に豪雨対策を加えること、農地中間管理機構関連農地整備事業の対象に農業用水路等を加えること、市町村や土地改良区が実施する事業へ土地改良事業団体連合会の技術的支援等を可能とすること、また、組織の維持が困難となった小規模土地改良区について、法人格を維持しながら認可地縁団体等に移行できる規定を設けることなどが予定されています。予算と制度が車の両輪となって土地改良の効果が確実に発現できるよう、引き続き進藤金日子議員とともに頑張る所存です。

これからも皆様とともに土地改良を着実に推進するため、進藤金日子議員と一緒に国政で取り組んで行けるよう、岡山県の皆様の格段のご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様お一人おひとりとご家族にとって素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。



新年のごあいさつ ～儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して～

岡山県農林水産部
部長 槇尾 俊之

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様方には、平素から本県農林水産行政の推進につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

農林水産業や農山漁村は、私たちの生活に欠くことのできない食料などの生産を行うとともに、県土や自然環境の保全など、県民の生活に密着した多くの機能や役割を有しています。一方で、農林水産業を取り巻く状況は、人口減少や高齢化による担い手の減少、荒廃農地の増加など厳しさを増しております。また、新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変化に的確に対応していくことが求められています。

このような中、県では、県政推進の羅針盤となる「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や、本県農林水産行政の基本計画である「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、国内外におけるブランド力の強化のほか、次代を担う力強い担い手の確保・育成、市場ニーズに対応できる供給力の強化、農林水産業を支える生産基盤の整備を進めてまいります。

本県が誇る桃やぶどうなどの産地形成には、農地の確保や農業用水の安定供給を担う農業水利施設などの整備が大いに貢献してきたところです。しかしながら、こうした施設の老朽化が進んでいることから、施設の機能が適切に発揮され、産地の持続的発展が図られるよう、引き続き、計画的な保全対策を着実に進めてまいります。

また、儲かる農業を実現するため、担い手への農地の集積・集約化や市場ニーズに応じた高収益作物の導入に必要な農地の大区画化や排水対策、水管理の省力化などの生産基盤の整備を一層推進してまいります。

さらに、頻発化・激甚化する豪雨や大規模地震等、自然災害から農山漁村を守るため、防災重点農業用ため池の改修や廃止、排水機場、治山ダム、海岸保全施設の整備等の防災・減災対策を一層進めるとともに、実施に当たっては、ソフト施策の活用を含め、市町村や関係部署との連携を一層強め、安全・安心な地域づくりに努めてまいります。

また、知的財産の保護・活用やスマート農業の推進といった、新たな時代の潮流・変化を踏まえた施策展開を図るなど、儲かる農林水産業を加速化させるとともに、ポストコロナの「新たな日常」を見据えた取組を進めてまいります。

本年も、関係団体の皆様方と連携し、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して取り組んでまいり所存でありますので、引き続き力強い御支援、御協力をお願いいたしますとともに、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
参与 細川 信佳

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、本県の農業農村整備事業の推進に当たりまして、格別の御支援と御協力を賜り心からお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、コロナ禍の影響で制約が多い中、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、本県ゆかりの選手が活躍されるなど明るい話題があった一方、米の需給環境の一層の悪化から令和3年産の米価が大幅に下落し、多くの農家の皆様が不安を抱えておられることと存じます。県では、県産米の販売拡大対策や新たな融資制度の創設など、県内の稲作農家が安心して米作りに取り組める環境整備に努めてまいります。

こうした中、国は昨年3月に新たな「土地改良長期計画」を策定し、食料の安定供給や多面的機能を維持していくため、“人口減少下で持続的に発展する農業”と“多様な人が住み続けられる農村”を目指す姿とし、それを下支えする土地改良事業を推進することとしています。

本県においても、基幹的農業従事者の平均年齢が71.5歳で全国4位と高齢化が顕著となるほか、耕地面積も半世紀余りの間に半減するなど、農業を取り巻く環境が変化していく中で、昨年からスタートした「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や「21おかやま農林水産プラン」に基づき、引き続き“儲かる産業としての農林水産業の確立”を目指し、担い手への農地の集積・集約化や市場のニーズに応じた収益性の高い作物の導入など、地域農業の将来像を見据えたうえで、その実現に必要な生産基盤の整備に取り組んでまいります。

また、農業生産に欠かせない土地改良施設の機能が将来にわたり適切に維持・発揮できるよう、計画的な長寿命化対策に取り組むとともに、地震や頻発化している豪雨から農業生産活動や農村生活を守るために、防災重点農業用ため池の改修や廃止など、防災・減災対策にも積極的に取り組み、安全で安心して農業が続けられる環境の整備を推進してまいります。

昨年のもう一つの話題として、メジャーリーグで二刀流という歴史的な活躍を見せた大谷翔平選手や、将棋界で最年少記録を塗り替えた藤井聡太四冠など、若者の活躍が目覚ましく、コロナ禍の私たちに励ましてくれました。農業農村整備の分野は補修や修繕が主体の維持管理の時代に入り、技術者としては閉塞感もありますが、次代を担う若い技術者が伸び伸びと活躍できるよう、技術の伝承や環境づくりにも努めてまいりたいと存じます。

本年も土地改良区や市町村の皆様方と連携をより深めながら、地域の描く農業が実現し、元気で活力ある農業・農村となるよう、全力を尽くしてまいりますので、会員の皆様の更なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして明るく幸多き年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
耕地課長 大賀 則男

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、つつがなく新春を迎えられたこととお慶び申し上げますとともに、日頃から農業農村整備事業の推進に格別の御理解と御協力をいただいております、深く感謝申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルス感染症の影響から、社会活動が一定程度制約される中、皆様方も大変ご苦労されたことと存じます。一方で、WEB会議や分散出勤など、コロナ禍に対応するための取組が、新たな働き方改革につながっていく機運も感じられるところです。

こうした中、県では、「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン」や「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、「儲かる産業としての農林水産業の確立」を目指し、「産地」「連携」「最適」をキーワードに、計画的かつ効率的に事業を推進しています。

特に、選果場を核とした5ha規模以上の桃やぶどうなどの産地を育成するため、「ハイブリッド産地育成推進事業」により、農地や施設、機械の整備に加え、担い手確保に向けた取組を一体的に支援しており、農業農村整備においては、農地中間管理機構関連農地整備事業等を活用した基盤整備を通じ、荒廃農地を含む水田を園地として再整備するなど、一層の供給力強化に取り組んでいるところです。

また、昨年策定した「岡山県防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進計画」に基づき、県内4,105箇所の防災重点農業用ため池について、防災工事等の対策を重点的に進めることとしており、昨年7月に設置した「岡山県ため池対策推進協議会」等で情報共有を図るとともに、県土連に設置している「岡山ため池保全管理サポートセンター」を活用しながら、市町村と連携して対策の加速化を図ってまいります。

さて、昨年末に発生した紀伊水道を震源とする最大震度5弱の地震では、「南海トラフ地震」が頭をよぎった方もいらっしゃると思いますが、本県では、国営事業により、児島湾締切堤防の耐震工事などに取り組んでいるところであり、災害のリスクを低減するため、一日も早い完成に向け、国と連携し推進してまいります。

さらに、気候変動による水害リスクの増大に備えるために、県下の各水系において、農業用ダム of 事前放流や農業用水路の事前水位低下による貯水容量の確保など、流域治水の取組も進められています。このように農業水利施設の社会的役割は多様化しており、今後も適正な機能が維持されるよう計画的な保全対策を講じてまいりますので、会員の皆様方の更なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして幸多き発展の年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
農村振興課長 片山 敦文

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より農業農村整備事業を通じて、本県の農業・農村の振興に、ご理解とご協力を頂いておりますことに厚くお礼を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の長期化や変異株による急速な感染拡大により、私たちの生活や経済活動はこれまでに経験のない影響を受けましたが、一方で新しい生活様式が定着し、テレワークや時差出勤など多様で柔軟な働き方、キャッシュレス決済の浸透など、ポストコロナを見据えた社会構造へと変化するとともに、ワクチン接種が進展等したことにより社会経済活動の再開や活性化が期待される一年となりました。

こうした社会情勢の中、本県の農業や農村を取り巻く状況は、一部に田園回帰や農業を見直す動きがあるものの、依然として農業者の減少や高齢化、耕地面積の減少などが続いています。このため、次代を担う力強い担い手の確保・育成や農地の集積・集約化のほか、地域の特色ある農業生産活動が継続できるよう、関係者や関係団体が一体となった取組を進める必要があります。

このため県では、昨年4月からスタートさせた新たな県政推進の羅針盤である「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や農林水産業の基本計画である「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、本県の農林水産業が儲かる産業として確立するための各種施策の推進に取り組んでおります。

中でも、農地の集積・集約化については、引き続き、重点施策として位置付け、農地中間管理事業を中心に推進することで、生産性の高い担い手の育成を進めることとしております。

さらに、中山間地域の農業・農村の活性化を図るため、中山間地域総合整備事業、農道整備事業などの生産基盤の整備と長寿命化対策のほか、荒廃農地の発生防止や多面的機能の維持・発揮のための日本型直接支払制度を推進するとともに、農家民宿、直売所などの地域資源を活用した魅力ある地域づくりに取り組むこととしております。

本年も引き続き会員の皆様と力を合わせ、粘り強く諸課題の解決に取り組んでまいりたいと考えておりますので、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご健勝とご繁栄を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

農業農村整備の集い

―農を守り、地方を創る予算の確保に向けて―

令和3年11月16日、東京都千代田区平河町の砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」で「農業農村整備の集い―農を守り、地方を創る予算の確保に向けて―」（主催：全国土地改良事業団体連合会、都道府県土地改良事業団体連合会）が開催され、国会議員や農林水産省幹部を含め約600名の土地改良関係者が全国から参集した。

冒頭、二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長は、「農家の方々が期待を持って働けるような環境をつくるため、一致団結して闘っていかなければならない」と「闘う土地改良」を強く訴えた。

祝辞では、金子原二郎農林水産大臣、自民党の森山裕 TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長、公明党の石井啓一幹事長、進藤金日子都道府県土連会長会議顧問が挨拶し、予算確保や土地改良の推進への尽力を誓った。

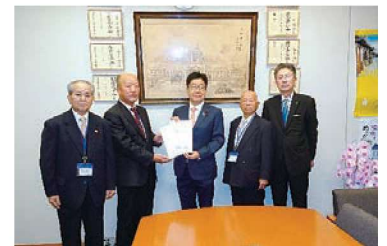
また、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践した、故藤井チエ子（山口県土連理事、やまぐち水土里ネット女性の会初代会長）、奥村千扶子（大島堰土地改良区理事長、日本ひなた女子会会長）の両氏に、二階会長から感謝状が授与された。

続いて、令和4年度の全国土地改良大会開催県である沖縄県の古謝景春沖縄県土連会長が要請案



文を朗読し、全会一致で採択され、最後は加藤里恵（あいち水土里ネット女性の会会長）、斎藤富子（やまぐち水土里ネット女性の会会長）、松野弘宗（全土連職員）3名による力強い発声に合わせて参加者全員による“ガンバロウ三唱”で閉会した。

閉会后、岡山県からの参加者は、採択された要請書により岡山県選出の国会議員へ要請活動を行った。



加藤勝信衆議院議員への要請活動

要 請 書

- 一 土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算において、必要な予算を確保すること。
- 二 大規模災害からの復旧・復興を早急に進めること。その際、原形復旧に止まらず、再度災害防止の措置を講じるとともに事務手続の簡素化に取り組むこと。
- 三 食料安定供給の確保、スマート農業の実装、高収益作物への転換、コメの需給安定のための麦・大豆の生産拡大、農産物の輸出促進等を図るため、農地集積・集約化を促す農地の大区画化と水田の畑地化・汎用化を一層推進すること。
- 四 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の長寿命化、豪雨・耐震化対策等を一層推進すること。併せて、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策については、2年目以降も1年目と同様に十分な予算を確保すること。また、「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」及び「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」に基づき、技術的・財政的支援を講ずること。
- 五 複式簿記の導入など組織運営基盤の強化に対する支援を、水土里ネットの声に真摯に耳を傾けて推進すること。
- 六 流域治水の取組推進に当たっては、関係する農業水利施設等の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担及び責任が生じないよう配慮すること。
- 七 安全・安心で快適な生活環境を確保するため、農業集落排水施設や農道等の生活インフラの再編・強靱化、農村地域の情報通信環境の整備を推進すること。
- 八 本年5月に農林水産省が公表した「人・農地など関連施策の見直し」に掲げられた土地改良制度の拡充（ため池等の豪雨対策、農地・農業水利施設の整備等に対する農家負担の軽減を含む支援、市町村や土地改良区を連合会がサポートする仕組み等）を令和4年度予算の成立に合わせて具体化すること。
- 九 新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、必要に応じ、農業水利施設の維持管理に関するセーフティネットを構築すること。
- 十 上記事項の実施に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

令和3年11月16日

全国土地改良事業団体連合会
都道府県土地改良事業団体連合会

令和4年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた要望活動 —岡山県土地改良事業団体連合会・岡山県農業農村整備事業推進協議会合同—

岡山県土地改良事業団体連合会及び岡山県農業農村整備事業推進協議会は、令和3年11月6日に財務省、農林水産省、自由民主党及び岡山県選出国会議員に対し、令和4年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた要望・提案活動を行った。

県内の農業農村整備事業を計画的かつ安定的に推進するため、現場ニーズに応えられる規模の農業農村整備事業関係予算の確保、ため池の防災・

減災対策の更なる推進を図ることなどを要望した。

今回の活動には男女共同参画の趣旨を踏まえ、「おかやま水土里ネット女性の会」から野口智美会長（牛窓町土地改良区会計主任）、小坂初江副会長（砂川右岸土地改良区事務職員）、武田知恵監事（足守土地改良区会計主任）の3氏が参加し、地域の実情を訴えるとともに、積極的な意見交換を行った。



宮崎雅夫農林水産大臣政務官



安部伸治農村振興局長【農林水産省】



進藤金日子参議院議員



野村宗成主計局主計官【財務省】



片山虎之助参議院議員



谷合正明参議院議員

土地改良区の皆様へ 複式簿記会計への移行についてご確認を

令和4年度から貸借対照表の作成・公表が義務化されたことにより、本年度中に会計細則の変更や土地改良区会計基準に対応した会計ソフトの購入など、複式簿記の導入に向けた準備が必要です。

現在、県内の大半の土地改良区で会計ソフトを導入済または導入予定であり、複式簿記会計への移行準備が進められているところですが、勘定科目の設定、会計細則の変更等、複式簿記会計への移行に伴う事項について再度ご確認いただくとともに、不明な点等ございましたらお気軽にお問い合わせください。

(お問い合わせは 総務企画課 TEL: 086-207-2200)

男女共同参画社会の実現が求められています ～土地改良区理事への女性登用～

令和2年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」では、地域農業に大きな影響力を持つ農業委員、農協役員及び土地改良区理事について、女性登用の目標が設定されました。

具体的には、すべての土地改良区において女性理事を登用することや、女性理事の占める割合を10%以上にするといった目標(2025年度)が定められました。

【現状】		R3.10 現在
	女性理事が登用されている土地改良区数	女性理事の割合
全 国	163 (全体 3,900)	0.6 %
岡山県	5 (全体 106)	0.42 %

児島湖流域清掃大作戦に参加しました

令和3年11月7日(日)、児島湖及び流域河川の5カ所において、児島湖流域環境保全対策推進協議会主催で、地域住民をはじめ各種団体から約1,200名が参加し一斉清掃が行われました。

会場の一つである児島湾締切堤防会場には約500名が参加。当会からも10名が参加し、湖岸への漂着ゴミや不法投棄されたゴミを回収しました。

約1時間の作業で不燃ゴミと可燃ゴミを合わせて7.57トンのゴミが集められました。

清掃終了後は児島湖産テナガエビの唐揚げと蒜山ジャージー牛乳が振舞われ、清掃の疲れを癒す味に舌鼓を打ちました。

当会では、引き続き児島湖流域の環境保全活動に積極的に参加したいと考えています。



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2021 受賞作品決定

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展（主催：全国水土里ネット、都道府県水土里ネット）は、農業・農村の素晴らしさと重要性を次世代に引き継いでいくため、絵画を通して子供たちに田んぼや農村に関心を持ってもらうとともに、大人たちへのメッセージとして子供のまなざしを届けることを目的に、全国の小学生以下の子どもを対象に2000年から実施しています。

絵画展2021では、全国から4,120点、岡山県からは6つの小学校から54点の応募があり、9月の予備審査、10月の本審査を経て、33点が入賞、45点が地域団体賞、150点が入選として選ばれました。岡山県関係の受賞作品は次のとおりでした。



東京都美術館での展示の様子

地域団体賞 「晴れの国 水土里ネット岡山会長賞」

入賞 「OBAYASHI サステナビリティ賞」



たんぼはザリガニパラダイス
森 志信さん（赤磐市立山陽小学校1年）



燃える祖母の赤いトラクター
吉村 陽之助さん（赤磐市立山陽小学校4年）

その他の入選作品

【入選】

- 尾高 瑚珀さん（赤磐市立山陽小学校3年）
島田 隼さん（美咲町立柵原西小学校4年）

【佳作】

- 藤原 響生さん（赤磐市立山陽小学校1年）
山之内 咲真さん（浅口市立六条院小学校1年）
多田 空叶さん（赤磐市立山陽小学校4年）
井本 煌也さん（赤磐市立山陽小学校4年）

岡山県の土地改良 題字：石井正弘書 第607号 令和4年1月1日発行

発行所 ●岡山県土地改良事業団体連合会 〒700-0824 岡山市北区内山下1丁目3番7号 県土連ビル
☎086-225-0921 fax086-226-0068
総 務 部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館3F・2F
☎086-207-2200 fax086-207-2202 e-mail:info@okadoren.or.jp http://www.okadoren.or.jp
岡山ため池保全管理サポートセンター 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
ため池相談窓口（月、木）☎086-207-2282
事 業 部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
☎086-273-2110 fax086-272-3937
事業部技術第三課 〒708-0051 津山市椿高下128-1
☎0868-35-2178 fax0868-35-2179

